沖洲地区　地震・津波避難支援マップ
（末広，南末広，安宅三丁目の一部）

平成25年6月

① 避難経路と歩行速度

避難路は比較的幅が広く，安全性も高いと思われるものを示していますが，利用を強制するものではありません．

不動産広告でよく見る『徒歩〇分』は70m/分（時速4.2km）で計算していますが，地震が発生すると，地割れ，家屋倒壊による道路の閉塞の他，負傷者や高齢者，幼児などの介助などで移動速度は半分以下になると言われています．

このマップには学校から直線距離で500m以内（約15分）であることが分かる円を描いています．

避難先まで「ゆっくり（普段の半分の速度）」歩いた場合の所要時間や経路上の危険箇所を確認しておくことが大事です．

② 津波避難ビルと一時避難場所

津波避難ビルは徳島市が指定したもので，一時避難場所は沖洲コミュニティ協議会が独自に協力を取り付けたものです．両者とも津波から身を守るために待機する場所で利用上の違いはありません．津波避難ビルは階高が３階以上の建物のみ標記しています．避難先名称下の数字は階数と３階以上の収容人数ですが，今後見直しされる可能性があります．

避難場所は階段や廊下など共有スペースです．所有者・住民の方に迷惑をかけないようにして下さい．一部を除いて長期間避難滞在する場所ではありませんので，食料・毛布等の備蓄はありません．

学校の収容人数は多いですが，昼間は児童・生徒が大勢いるため，外部からの避難者受け入れが難しい場合があります．一時避難場所には利用時間等の制限がある建物があります．

③ 地盤標高と津波の高さ

この地図に示した地盤標高は東京湾平均海面（T.P.）の高さを基準とした海抜です．

徳島県が公表する津波高さの予測値はT.P.上の高さで計算していますが，朔望平均満潮位※+0.876m（徳島・小松島）を加えた水位を基準に計算しています．ただし夏場には+0.876mよりも0.3mほど高くなる時期があります．また低気圧が接近すれば更に上昇しますので注意が必要です．

地震による地盤沈下も忘れてはいけません．津波の高さだけに気を取られずに津波に備えることが肝要です．

※朔望平均満潮位：新月および満月の日から5日以内に現れる，各月の最高満潮面の平均値のことです．

「この地図は、徳島市長の承認を得て、1/2,500地形図を複製したものである。（承認番号　徳島市指令都政第１２３号」

製作：沖洲コミュニティ協議会／徳島大学環境防災研究センター／徳島市

沖洲地区　地震・津波避難支援マップ
（金沢，北沖洲，南沖洲）

平成25年6月

「この地図は、徳島市長の承認を得て、1/2,500地形図を複製した
ものである。（承認番号　徳島市指令都政第１２３号」

製作：沖洲コミュニティ協議会／徳島大学環境防災研究センター／徳島市